

## 17世紀フランス演劇史研究ノート

— 1598年パリ：古文書の読み違いをめぐって —

戸 口 民 也

歴史研究は原資料にあたるべしという鉄則を絵にかいたようなケースがあったので、自戒の意味もこめて紹介しよう。

私はしばらく前からヴァルラン・ル・コント Valleran le Conte という役者に興味を持ち、彼の生涯を調べている。16世紀末から17世紀初めにかけて活躍した人物で、職業俳優としては——少なくとも後世に名が伝わり、しかもその活動の様子もある程度具体的にたどることができる役者としては——草分け的存在である。そのヴァルランについて、私はこれまで次の論文を発表している。

「ヴァルラン・ル・コントあるいは新しい演劇のために——17世紀フランス演劇史序説(その1)」、17世紀仏演劇研究会『エイコス』第2号、1980年。

「同(その2)」、長崎外国語短期大学『論叢』第28号、1985年。

「同(その3)」、長崎外国語短期大学『論叢』第29号、1986年。

「同(その4)」、長崎外国語短期大学『論叢』第31号、1988年。

彼の生涯を少しずつたどっていて、「その4」では1598年の途中にきている。遅々たる歩みで、完成までは前途遠遠であるが、そのうえまた難問にぶつかってしまった。原資料に直接あたらなければ、という問題である。

テーマからいって、これは文書資料——古文書、より具体的には、例えば劇団結成の契約書や劇場の賃貸契約書のような、公証人を前に作成した文書——を拠り所としながら調べをすすめる必要があった。ところが「その4」までに使った文書・資料は、すべてセカンド・ハンドのものだった。フランスを訪れる機会などほとんど期待できないような状況だったため、古文書の解読作業という問題はさておくとして、古文書そのものに直接あたる機会もまずあり得ないと思い、セカンド・ハンドもやむなしと考えていたのだった。ところが「その4」を書いた後、結局のところ原資料を参照せざるをえないような状況に立ちいたったのである。

ことの起こりは、あまりにも単純な読み違いだった。「その4」で取り上げた“Bail par la Confrérie de la Passion à Jean Thays(sic) et ses compagnons, comédiens anglais (\*)”の日付が間違っていたのである。

(\*) S. Wilma Deierkauf-Holsboer, *Le Théâtre de l'Hôtel de Bourgogne, I*, Paris, Nizet, 1968. Appendice

No 3. pp.173-174.(「その4」では p.2 の最終行 以下参照。)

この契約については、すでにスーリエ Soulié が発見したオテル・ド・ブルゴーニュ座関係の文書—正確には関係文書目録—から、その存在は知られていた(\*)。

(\*) “Inventaire des titres et papiers de l’Hôtel de Bourgogne, Minutes de M<sup>e</sup> Turquet, le 31 mars 1639”, in Eudore Soulié, *Recherches sur Molière et sur sa famille*, Paris, Hachette, 1863, pp.151-165.

なお、この契約に関しては同書 p.153 に次の通り記述されている (Soulié による 要約)。  
1598. 25 mai. — Bail fait par les maîtres de ladite confrérie à “Jehan Schais, comédien anglois, de la grande salle et théâtre dudit hôtel de Bourgogne, pour le temps, aux réservations, et moyennant les prix, charges, clauses et conditions portées par icelui” passé par devant Huart et Claude Nourel, notaires.

つまり Soulié の発見した文書によれば、この契約の日付は 1598 年 5 月 25 日とされており、それ以後の研究者たちはこの日付に従ってきた。デイエルコーフ・オルスボエル夫人 Mme Deierkauf-Holsboer も *Vie d’Alexandre Hardy* では「5月」25日を踏襲していたが、*Le Théâtre de l’Hôtel de Bourgogne, I* では問題の契約書のテキストを補遺 Appendice に収録し、その際に契約書の日付を「3月 mars」25日と改めた。また、オテル・ド・ブルゴーニュ座賃貸契約の相手側であるイギリス人劇団の座長の名前も従来の “Jehan Schais” から “Jean Thays” と読みかえたのだった(\*)。

(\*) ただし Deierkauf-Holsboer は、*Le Théâtre de l’Hôtel de Bourgogne, I* (1968年刊)よりも後に刊行された *Vie d’Alexandre Hardy* の増補改訂版(1972年刊)では「5月」25日、“Jehan Schais” をそのままつかっている。この後詳しく述べるように、実は「3月」は間違いで「5月」が正しく、“Jean Thays” についてもさらに訂正が必要なのだが、少なくとも上にあげた二つの著書の刊行時期だけみれば、これは明らかに「改訂もれ」である。

Voir. Deierkauf-Holsboer, *Vie d’Alexandre Hardy, poète du roi, 1572-1632*, Nouvelle édition revue et augmentée, Paris, Nizet, 1972. p.48.

普通、それまで定説となっていたことをくつがえす場合には、それ相当の理由がなければならぬ。だが、契約書のテキストがそうなっているのなら、それに従うべきだろう。そう思ったので、私も契約の日付に関しては *Le Théâtre de l’Hôtel de Bourgogne, I* の日付に従うことにしたわけである。またイギリス人劇団の座長の名前についても、留保つきながら Deierkauf-Holsboer の新しい読み方を取りあえず採用することにした。

ところが、これがとんでもない間違いだったのである。その事情について詳しく説明しよう。

まず、日付についてである。

「その4」が刊行された後、私は、契約の日付について一応は断っておくべきだったかなと思いはじめた。既にでてしまったあとではあるが、多少こだわりが残ったので、念のためもう一度考えて

みた。「5月」と「3月」というくい違いがおこった理由は容易に想像できた。“mai”(当時の一般的な綴りでは“may”)と“mars”は読み違う可能性がたしかにありそうだからである。だから、後になって文書目録をつくる時、何かの拍子で間違っただろう・・・ そう考えているうちにふと思いついたのが、他の文書と日付・曜日を照合すれば5月と3月のどちらが正しいかすぐ確かめられるはずだ、ということである。そこでものは試しと早速照合してみたところ、なんとということか、曜日をもとに計算すると、間違っていたはずの「5月」の方が実は正しいという結果がでたのである。

契約書の本文中、日付を示す部分は、Deierkauf-Holsboer の transcription によれば “Faict et passé es études des notaires souzignés l’an mil cinq cens quatre vingtz dix huit, le lundy vingt cinquiesme jour de mars apres midy” となっている。つまり、1598年「3月」25日、「月曜日」ということだ。

ところで、Deierkauf-Holsboer が発掘し、問題の契約書とあわせて *Le Théâtre de l’Hôtel de Bourgogne, I* に収録している文書のうち、同じ1598年のもので曜日まで明示されているものを取り出すと、次のようになる。

- 3月16日、月曜日。“Contrat de société entre Valleran le Conte et sa troupe du Roi et Adrien Talmy et sa compagnie de comédiens français”, Appendice No 2. (pp.170-173.)
- 6月4日、木曜日。“Un jugement de la Prévôté de Paris entre les Maîtres et les comédiens anglais”, Appendice No 5. (pp.176-177.)

さてそこで、1598年の3月16日が月曜日で6月4日が木曜日であるとすれば、

- 3月25日は月曜日ではなく、水曜日でなければならない。
- 反対に、5月25日は月曜日となる。

だから契約書に日付は、3月25日ではなく、5月25日とする方が理にかなっているわけである。一体どこでこんな間違いが生じたのだろうか？

ここでひとつ断っておかなければならないのは、問題の契約書は原本ではなく1640年に転写されたものだったということである(\*)。

(\*) *Le Théâtre de l’Hôtel de Bourgogne, I*, p.43 の脚注(17)を参照。なお、この文書が後年の転写であるという事実については、日付の問題を意識するようになるまではあまり注意していなかった。いや、正直に言って、その違いの意味を本当に意識するようになったのは、古文書の世界に実際に足を踏み入れ、文書を直接自分の目で見、おぼつかないながらも原資料を参照するようになってからのことである。まさに不注意だったと白状するほかない。

日付の問題に戻るが、間違いの原因としてとりあえず二つの可能性が考えられる。

-問題の文書には“le 25 may”と書かれていたのだが、Deierkauf-Holsboerが“le 25 mars”と読み違えてしまった。

-転写のとき間違っって“le 25 mars”と記され、それをDeierkauf-Holsboerはそのまま読み取った。

もちろん、想像をたくましくしてゆけば、まだ他にも可能性がないわけではない。例えば原本に「月」ではなく「曜日」の書き間違いがあったなど…しかし、そこまで考える必要はまずないだろう。

間違いの原因がどうであれ、いずれにせよそれに気づきたい以上、私としてはヴェルランについての論文をそのまま書き続けるわけにはいかなくなってしまった。というのも、「その4」では*Le Théâtre de l'Hôtel de Bourgogne, I*に従って契約書の日付を「5月25日」とし、その前提で論を進めていたからである。とにかく訂正はしなくてはならない。それどころか、大幅な書き直しも覚悟する必要があった。

しかし、どうせ書き直すのならその前に、間違いの原因をはっきり突き止めておきたかった。間違いの原因は上にあげた二つのうちの一つであることはほとんど確実だが、実際に原資料に当たらないかぎり、それは推測でしかない。逆に、直接文書を見れば、問題ははっきり解決するはずである。日付についてだけでなく、“Jean Thays”についても確認してみたかった。「その4」でもふれたのだが、A. Herbertが“Jehan Sehais”について“John Thayer”という仮説を提示しているからである(\*)。 “Thays”と“Thayer”、つまり最後が“s”か“er”かというだけの違いで、しかも手書きでは非常に似たりとなるのである。

(\*) A. Herbert, “Qui était Jehan Sehais?”, *XVII<sup>e</sup> siècle*, No 68 (1965), pp. 57-60. 「その4」註3も参照。  
なお Herbert は綴りよりはむしろ英語とフランス語の発音上の問題から論じている。

問題の文書の所在と分類番号は明示されていた。しかも、ちょうどそのころフランスを訪れる機会がはからずもめぐってきたので、思い切って原本に直接あたってみることにした。

その結果、以下のことが明らかになったのである。

問題の契約文書は、たしかにDeierkauf-Holsboerが記しているように、パリの国立古文書館 Archives Nationales の公証人証書保存所 Minutier central に、分類番号 fonds XXXV, liasse 377として分類された書類の束の中にあつた。いや正確には、書類の束に「添えられた」かたちでボール紙の箱 carton の中に入れてあつた、と言うべきだろう。その辺の事情をもう少し詳しく説明すると、こうである。

*Le Théâtre de l'Hôtel de Bourgogne, I* に補遺 Appendice として収録された文書のうち、fonds XXXV, liasse 377に分類されているものは次の四つの文書である(最初につけられた番号は Appendice の文書番号)。

3. Bail par la Confrérie de la Passion à Jean Thays(sic) et ses compagnons, comédiens anglais. 25

mars(mai) 1598. (p.173-174.)

4. Inventaire des pièces relatives à l'Hôtel de Bourgogne, 17 mars 1598 et 28 avril 1599. (p.175.)

5. Un Jugement de la Prévôté de Paris entre les Maîtres et les comédiens anglais. 4 juin 1598. (p.176-177.)

6. Un accord conclu entre les Maîtres de la Confrérie de la Passion et les comédiens français. 30 octobre 1600. (pp.177-178.)

そしてこれら四つの文書は Confrérie de la Passion 関係としてひとつにまとめられ、1640年の liasse (文書の束)に、それとは別であることがはっきりわかる形で添えられていた。

たしかにこの四つの文書が後年の転写であることは、実際に文書を見てよくわかった。たとえば字の大きさや字体、余白の残し方から行間の具合などが通常の公証人証書の原本とは明らかに違っている。また文書3と文書5はひとつの紙に——厳密には二つ折の紙の1ページ目から2ページ目にかけて——続けて書かれている。それも日付からすれば後になるべき文書5のほうが先にきて、文書3が逆に後にくるといふ、普通には考えられない順序で書かれているし、その他にも、通常の契約文書であれば契約の当事者と公証人の署名が当然あるはずなのにそれがないなど、いかにも後年の転写であることをうかがわせるような要素はいくつも見つけられるのである(\*)。

(\*) 図版1には文書5と文書3が続けて書かれているページ(第1ページ)を、また図版2には通常の公証人証書の原本の例として“Accord entre Valleran le Conte, comédien du roi, et sa troupe, et Benoist Petit, comédien français, et sa troupe”, 4 janvier 1599 (Archives Nationales, Minutier central, fonds XV, liasse 7. Voir. *Vie d'Alexandre Hardy*, Nouv. éd., Appendice No 5, pp.175-177. —なおお分類番号は XV:8と記されているが、XV:7が正しい)の第1ページをあげておいたので、ひとつ見くらべていただきたい。

なお文書4は、“Inventaire...”と始まっていることからわかるように、関係文書目録である。ただし、*Le Théâtre de l'Hôtel de Bourgogne, I*にはテキストの一部しか収録されていなかった(これも原資料に直接あたったからこそ確認できたことである)、最後に補遺として全文の transcription をあげておいた。

さて、契約書の日付は原資料ではどうなっていただろうか?図版3を御覧いただきたい。肝腎の「月」の記述は「書き加え」のかたちになっている(この文書が後年の転写であることを示す証拠のひとつでもある)。だいぶ読みにくくはあるが、「mars 3月」ではなく「may 5月」と書かれている。つまり Deierkauf-Holsboer の読み違いということだ。それにしても、問題の月の名が書き足しだったのは、実物に直接あたってはじめてわかったことだった。

もうひとつ、イギリス人劇団の座長の名前についてである。名前が記されている箇所をいくつか図版4にあげてみた。これもかなり読みにくくはあるが、“Jean Thayer”または“Thaier”と記されて

いる。A. Herbert の John Thayer 説は正しかったわけである。

なお、これらの読み方については、アンジェ Angers 市にある「メヌ・エ・ロワール県立古文書館」Archives départementales de Maine et Loire の archiviste であるアンドレ・サラザン André Sarazin 氏にも確認していただいた。サラザン氏には補遺にあげた文書の解説でも力をかしていただいた。この場をかりてお礼申し上げたい。

以上、二つの読み違いが確認されたわけだが、どちらもよく注意して読めば間違えずにすんだはずなのには思えるものである。とくに月の名の読み違いについては、曜日と日付の照合による確認を怠ったという不手際も重なっている。最初に述べたように、これらは従来の読み方の変更を意味していただけに(しかも変更をしておきながら、他の著書の改訂版では「改訂もれ」というおまけまでついている)、なおのことお粗末なミスという印象をぬぐえない。とはいえ、それにうっかりとのせられた私自身も不注意なうえに軽率だった。これをもって戒めとするものである。

なお、ヴァルラン・ル・コントについては、近いうちに続きを書く予定である。今回紹介した事実をふまえながら「その4」の誤りを訂正した上で、ということは言うまでもない。

#### 補遺

##### Inventaire des pièces relatives à l'Hôtel de Bourgogne

Inventaire des pièces que mettent et produisent par devant vous monsieur le prévost de Paris et monsieur vostre Lieutenant Civil et messieurs tenant le siège présidial au Chastellet dud. lieu les doyens et maistres administrateurs de la Confreiry de la Passion et leurs confrères propriétaires de la maison et hostel de Bourgogne demandeurs / Contre Mathieu Lefebvre de la Porte et mademoise Marie Penier(sic) sa femme en leurs compagnons commédiens deffandeurs / Par protestation d'augmenter ou diminuer le présent Inventaire sy mestier est; il y est cotté / Premièrement pour l'intelligence du faict et monstrier de ce dont il s'agit au présent procès produisent lesd. demandeurs l'advertissement par eux mis et baillé par escript a cour auquel sont aplein contenues les moyens et raisons pour lesquelz il espère obtenir l'adjudication des fins et conclusions portée en l'introduction d'icelluy et est cotté au dos A / Item pour montrer et justifier du contenu audit advertissement et que les deffandeurs ne peuvent en façon quelconque s'exempter du droit de soixante solz que lesd. demendeurs prétendent leur estre par eux deubz pour chacun jour qu'ilz ont joué et représenté publiquement, jouent à présent et représenteront à l'advenir en aultre lieu de ceste ville faulxbourg et banlieue d'icelle que aud. hostel de Bourgogne tant pour estre led. droit acquis aux demendeurs par privilèges conceddez de temps en temps par les rois de France que par arrestz de la cour sentences et règlemens dud. Chastellet rendant en conséquence d'iceulx / produisent lesd. demendeurs trois pièces attachées ensemble / La première est un arrest de nosseigneurs de la cour de Parlement à Paris en datte du vingt huitiesme novembre mil cinq cens quatre vingtz dix huit relatif à un aultre arrest du dix septiesme novembre mil cinq cens

quarante huict par lequel suivant les lettres patentes du roy et après qu'il sera aparü à la cour des privilèges desd. maistres et administrateurs et dud. arrest de l'an cinq cens quarante huict leur auroit esté donné licence de jouer et faire jouer jeux honnestes et récréatifs sans offencer personne en la salle dud. hostel de Bourgogne ou aultre lieu et à place licitte et commode avecq deffence à tous aultres joueurs commédiens ou aultres de jouer et représenter dans la ville faulxbourg et banlieue ailleurs qu'en ladite salle ou soubz le nom et au proffit de lad. Confrérie de la Passion suivant led. arrest de quarante huict / La deuxiesme est une sentence donnée aud. Chastellet le dix septiesme jour de mars mil cinq cens quatre vingt dix huict entre lesd. maistres et administrateurs d'une part et Valleran Leconte commédien françois d'aultre sur le différent pareil que celluy dont il est à présent question par laquelle nous apparoistra, après avoir ouy monsieur le procureur du roy, avoir esté permis aud. Valleran le Conte de jouer ailleurs qu'aud. hostel de Bourgogne à la charge de payer par luy et ses compagnons à ladite Confrérie de la Passion un escu solz par chacun jour qu'il jouerait ailleurs qu'aud. hostel de Bourgogne en contre que lors il y eust aultres comédiens aud. hostel de Bourgogne / La troisieme et dernière est ung aultre sentence aussy donnée aud. Chastellet le vingt huictiesme avril mil cinq cens quatre vingt dix neuf entre lesd. M<sup>rs</sup> (maîtres) et administrateurs d'une part et les commédiens italiens du roy d'aultre par laquelle entre aultres choses vous aparoistra deffences avoir esté faictes tant ausd. commédiens italiens que tous aultres de quelque qualité et condition qu'ilz soient de jouer et représenter aucuns jeux commédies ou tragédies tant en ceste ville de Paris faulxbopurg que banlieue sinon en ladite maison de l'hostel de Bourgogne s'ilz n'avoient de ce faire exprès pouvoir desd. M<sup>rs</sup> (maîtres) et administrateurs / Toutefois lesd. pièces duement signifiées et communiquées ausd. deffendeurs suivant vostre jugement et sont cotté au dos par B / Item produisent lesd. demandeurs deux pièces attachée ensemble / La première est la coppie signifiée ausd. demandeurs de la requeste à vous présentée par les deffendeurs et la permission de vous donnée à iceulx de représenter et jouer en ceste ville (de Paris) quinepeut sauf correction préjudicier aux droitz et privilège desd. demandeurs d'aultant que par ladite permission il n'y a aucun lieu particulier designé et par conséquent se peust aussy bien entendre pour l'hostel de Bourgogne que aultrement, joint qu'elle a esté de vous obtenue par surprise sans connaissance de cause et sans parties légitimes et partant non considérable / La deuxiesme et dernière est la coppie aussy signifiée ausd. demandeurs de certin(certain) brevet obtenu de sa majesté par les deffendeurs le seiziesme novembre mil six cens neuf dernier par lequel sadite majesté leur auroict permis de représenter et jouer partout où bon leur sembleroit pour leur commodité avecq deffence de les troubler et empescher mesme à ceulx de l'hostel de Bourgogne de prendre et exiger aucuns deniers et devoir à iceulx / Lequel brevet sauf correction n'est pareillement suffisant pour altérer ou ruiner lesd. droitz et privilèges des demandeurs d'aultant qu'il a esté mandée longtemps depuis le présent procès intenté comme il se peult voir par la confrontation des dattes et partant non considérable joint que n'estant par icelluy dérogré aux privilèges des demandeurs ains(au contraire) seulement faict mantion(mention) d'une exaction s'ilz en voulaient faire aucune, il ne peut en façon quelconque fortifier les deffendeurs en leur cause considéré mesme que le droit prétendu par lesd. demandeurs dont est question ne peut estre qualifié de ce mot d'exaction estant permis et approuvé en conséquence de leurs privilèges par plusieurs arrestz règlemens et sentences et sont lesd. deux pièces cottées au dos par C / Item pour monstres de la proceddure au procès produisent lesd. demandeurs cinq pièces attachez ensemble / La première est une assignation donné aux deffendeurs à la requeste desd.

demandeurs par Durefort sergent le sixiesme novembre aud. temps mil six cens neuf à comparoir par devant vous en vostre hostel(hôtel de justice) pour leur voir faire deffence de faire aulcuns jeux ny ouverture de théastre attendu qu'il ne leur estoit permis de ce faire et qu'il n'y avoit que l'hostel de Bourgogne où l'on peut jouer et représenter / La seconde est un deffault obtenu contre lesd. deffendeurs sur ladite assignation / La troisieme est la signification à eux faict à la requeste desd. demandeurs le neufiesme jour dud. mois que led. deffault avoit esté obtenu et assignation en vostre hostel pour procedder sur icelluy / La quatrieme est un jugement de vous rendu led. jour neufiesme novembre par lequel après avoir ouy les partyes auroit ordonné qu'elles communiqueroient respectivement leurs lettres pièces et exploictz privilèges et exemptions pour ce fait ordonner ce que de raison / La cinquiesme et dernière est un aultre jugement de vous rendu le ( blanc ) jour de ( blanc ) audit an mil six cens neuf par lequel avez(vous avez) ordonné que les pièces exploictz desd. partyes seront mises en vos mains pour leur estre faict droict ainsy que de raison / et sont lesd. pièces cottées au dos par D / Item produisent lesd. demandeurs au présent Inventaire cotté au dos E / Item s'aydent lesd. demandeurs de la production des deffendeurs sy auculne, ils font en ce que servir leur peult et non aultrement / en papier collationné /

(付記)この文書の transcription にあたっては、アクサン記号、セディーユ、アポストロフを付け加えた。原文にはこれらの記号はまったく使われていないが、とくにéで終わる過去分詞などはアクサン記号なしでは読み違える恐れも多いため、こうした手段をとることにした。なお同じ理由から、コンマ、ピリオドもいくつか付け加えた。また( )内の指示は、

- 読者の理解をたすけるためのもの : certin (certain) などいくつか
- 原文のままであることを示すもの : (sic)
- および原文でその部分が空白になっていることを示すもの : (blanc)

などである。

その他については原文のままである。綴りの間違いや文法上の誤り(たとえば過去分詞の一致の誤りなど)が一部にみられるが、あえて訂正はしなかった。

この文書には Mathieu Lefebvre (舞台名は Laporte) とその妻 Marie Vénrière (この文書では Penier と記されている)の名前がでてきたり、1609年11月の裁判ざたについての言及があったりする(これらは *Le Théâtre de l'Hôtel de Bourgogne, I* では省略された部分である)。ヴァルラン・ル・コントについての論文が1609年にさしかかったときには改めてこの文書を取り上げることになるが、それはまだ先のことになりそうである。

なお Marie Vénrière についてだが、普通は Venier と記されることが多い。しかし、他の文書や彼女の姉妹とされている Colombe に関する文書などからも、私は Vénrière という綴りのほうが適当であると考えている。Marie に関する文書についてはここではあえて取り上げないが、Colombe に関しては拙稿「17世紀フランス演劇史研究ノート——1603年アンジェ:ある劇団協約文書をめぐって」(『エイコス』第5号、1989年、pp.1-12. とくに p.3)を参照されたい。







unittouwe. Cap amty froble alle de et  
 raffre et studice de No<sup>res</sup> suby No<sup>res</sup> Lany  
 t le lundy vinytinq uetmy <sup>ou d'anné</sup> ap<sup>re</sup> ce lundy led  
 me ne signa a l'heure p<sup>re</sup>cedente assistans  
 a l'audience de l'ed' No<sup>res</sup> a il ne tain  
 a aghy /

図版3 契約書の日付

l'homme y d'entre le Jour saint  
 a Jean Thayer commediary angl  
~~et Jean au manoir de ess~~  
 a l'heure d'entre de l'heure Thayer de  
 a ce jour p<sup>re</sup>cedente par l'ed' No<sup>res</sup>  
 pour led' Thayer la salle de l'hostie  
 par led' Thayer et sa compaignie  
 hommes que ledit Thayer et led'  
 n'ont ne injurie aucune par so

d'entre et bonne heure led' Thayer et  
 led' Thayer et led' compaignie fait  
 p<sup>re</sup>cedente l'ed' No<sup>res</sup> faisant l'ed' No<sup>res</sup>  
 d'entre et l'ed' No<sup>res</sup> l'ed' No<sup>res</sup> l'ed' No<sup>res</sup>  
 au contentement de l'ed' No<sup>res</sup> l'ed' No<sup>res</sup>

図版4 "Jean Thayer" または "Thaier" と記されている箇所